

Ⅱ

学修について

I 建学の精神

Ⅱ 学修について

Ⅲ 履修計画の作成
と登録制度

Ⅳ 教養教育
について

V 国際学部
の概要

Ⅵ 国際文化
学科の概要

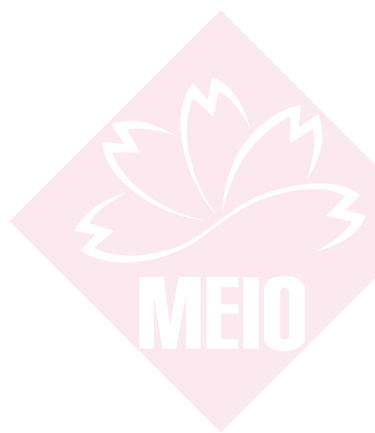
Ⅶ 国際観光
産業学科
の概要

Ⅷ 留学・
資格等
について

Ⅸ 諸手
続き
について

X 学則・
諸規程

XI 付
録



Ⅱ. 学修について

履修に関する用語の解説

この履修ガイドを理解するためには、学生は次の表の示した用語理解が必要です。

項 目	説 明																									
オフィスアワー	学生が事前の約束無しに教員研究室を訪問できる時間帯のこと。各教員は週 2 時間が設定されている。※UNIVERSAL PASSPORT・メール・遠隔授業受講ツールなどの利用も含みます。																									
ガイダンス	生活・学習のあらゆる面にわたり、学生が自己の能力や個性を最大限に発揮しうよう助言すること。履修に関するガイダンスは学期開始前に開催されます。																									
カリキュラム	国際学部が掲げる教育理念・目的に基づき、自主的・自律的に編成した教育体系です。																									
授業計画（シラバス）	登録前に学生に提示・配付され、授業の目標、授業で扱う内容、授業の進め方、評価方法など授業の全体像を示す文書です。																									
セメスター制	1 学年複数学期制の授業形態 一つの授業を学期（セメスター）ごとに完結させる制度のことです。本学では 1 年間で前学期・後学期の 2 期に分けています。																									
前提科目 前提条件	ある科目を履修前に、知っておかなければならない分野や科目を指定し、修得していなければならない科目を「前提科目」あるいは「前提条件」といいます。自分が取りたい科目にこの前提科目や前提条件がある場合は、その前提科目を修得した後でなければ履修登録ができません。																									
卒業要件	卒業するために学生が修得すべき単位数＝124単位以上と履修科目があります。																									
単位修得	授業を受け、試験などに合格し、単位が与えられることをいいます。																									
副専攻 （地域マネジメント）	地域の現状や課題に関する理解を深め、地域の抱える課題解決の為に具体的な方策の提案や実践を通し地域の維持と発展に対して主体的に関わり能動的に行動できる人材を育成する地域志向型教育プログラムです。																									
暴風警報	気象庁が発令する気象警報の一つです。名桜大学のある沖縄本島に台風が接近、または、上陸の恐れがある際、気象庁が風速25m/s以上の暴風の可能性が高い場合に発令されます。暴風警報が発令された際の講義の取扱い「暴風時の授業の取扱いに関する申合せ（p224）」参照してください。																									
履 修	科目の受講を登録し、授業を受けることをいいます。																									
CAP制	単位の過剰登録を防ぎ効果的な学修をすすめるために、1 年間あるいは 1 学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度です。本学における 1 セメスターで履修登録できる単位数は原則20単位です。																									
GPA制度	本学のGPA（Grade Point Average＝評定平均値）は、成績評価「秀(S)・優(A)・良(B)・可(C)・不可(F)」を 4～0 までのGrade Point (GP) に置き換え、以下の計算式で算出します。（教職科目は除く） GPA＝ $\frac{(\text{修得単位数} \times \text{GP}) \text{の合計} = \text{②}}{\text{履修登録科目の単位数合計} = \text{①}}$ GPA算出例：<table><tr><th>科目名</th><th>単位数</th><th>評価</th><th>GP</th><th>単位数×GP</th></tr><tr><td>●●基礎</td><td>2</td><td>秀(S)</td><td>4</td><td>8</td></tr><tr><td>○○総論</td><td>2</td><td>良(B)</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td>△△実技</td><td>1</td><td>優(A)</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>履修登録科目 単位数合計①</td><td>5</td><td>修得単位数×GP の合計②</td><td></td><td>15</td></tr></table> GPA $GPA = \frac{15}{5} = 3.0$	科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP	●●基礎	2	秀(S)	4	8	○○総論	2	良(B)	2	4	△△実技	1	優(A)	3	3	履修登録科目 単位数合計①	5	修得単位数×GP の合計②		15
科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP																						
●●基礎	2	秀(S)	4	8																						
○○総論	2	良(B)	2	4																						
△△実技	1	優(A)	3	3																						
履修登録科目 単位数合計①	5	修得単位数×GP の合計②		15																						

UNIVERSAL PASSPORT	名桜大学のWebサイト上で、履修登録、シラバス照会、成績照会ができるシステムの総称です。
-----------------------	--

学籍と学生番号について

学籍とは、学生としての身分を有することを意味し、本学の入学試験に合格して入学手続を完了した者に本学への入学が許可され、本学学生としての学籍が与えられます。在学中に本人の氏名・本籍地・住所・保証人（外国人留学生は在日保証人）等の変更があった場合は、ただちに学生課に届け出てください。

- 1) 学生番号は入学時に決定し、原則として在学中は変更しません。学校に提出する書類には、氏名とともに 学生番号を必ず記入することになっています。
- 2) 学生番号は9桁で表記され、次のような仕組みになっています。

学部学科名	学位識別	学部識別	学科識別	課程識別	入学年度	個人番号
国際学部 国際文化学科	B	1	1	0	24	000
国際学部 国際観光産業学科	B	1	2	0	24	000
人間健康学部 スポーツ健康学科	B	2	1	0	24	000
人間健康学部 看護学科	B	2	2	0	24	000
人間健康学部 健康情報学科	B	2	3	0	24	000

大学での「学び」

高校と大学では学び方が大きく異なります。高校では、知識の蓄積と、与えられた問いに決められた通り正しく答えることが求められてきたと思います。他者に教わりながら、正解がある問題に対して、正確に速く答えを導き出すことが求められてきたとも言えるでしょう。これを一般的には「勉強」と言います。

それに対して、大学では、自ら問いを立てて、自分なりの答えを出し、どうしてもその答えが妥当なのかを論証することが求められます。これを「学問」と言います。

また、大学における学び方については、講義、演習、実験、実技等の『授業時間』とともに、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な『自学自修時間』を含めた『単位制』が取られています。この学び方のことを「学修」と呼び、高校までの「学習」とは区別しています。

そして、大学では「学問」のために「学修」している人たちを「学生」と呼んでいます。高校と大学の最も大きな違いは、大学では、研究対象が法令違反や人権侵害に抵触し

ないならば様々なことを自分で自由に決めることができるということです。逆に、主体的に自分が動かなければ、何も学べないし、誰も手を貸してくれないということにもなります。自由度が増える代わりに、自己責任も大きくなるのです。

名桜大学では、「学生」が「学修」に取り組み、体系的な「学問」が学べるよう授業をはじめとして、様々な仕組みやサポート体制を整えています。

	学びの種類	学び方	学ぶ人	教える人
大 学	学 問	学 修	学 生	講 師
高 校	勉 強	学 習	生 徒	教 諭

単位制度

大学の教育課程は「単位制度」に基づいて編成されています。開講している授業科目には、それぞれ単位数が定められています。その単位を修得するためには、次のような手続きが必要です。はじめに、受講する科目の履修登録を行い、所定の時間を学修します。そして、試験等に合格しなければなりません。また、学科ごとに定められた卒業要件で決められた単位数と履修科目を満たした場合に卒業資格が与えられます。



単位の計算方法

大学教育は単位制度を基本としており、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされています。ここでいう1単位あたりの学修時間は、授業時間内の学修時間だけでなく、その授業の事前の準備学修・事後の復習（自学自修）を合わせたものとなっています。

1単位

=

授業時間

+

事前の準備学習
事後の復習
(自学自修)

×

15回

=

45時間

本学の授業は1学期（セメスター）を15週として前学期・後学期に分かれています。大学の授業時間と単位については学則に明示している通りで、1時間は45分で計算し、1コマ（1回）は1時間30分で、制度上これを2時間として計算します。授業形態によって算定基準が異なりますので次頁の表を参照ください。

授業形態	1 セメスターあたりの単位数	1 セメスターあたりの学修量	内 訳		週のコマ数
			授業時間	自学自修時間	
講義・演習	2 単位	90時間	30時間	60時間	1 コマ
外国語	2 単位	90時間	60時間	30時間	2 コマ
実験・実習・実技	1 単位	45時間	30時間	15時間	1 コマ
	2 単位	90時間	60時間	30時間	2 コマ

※講義・演習：15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 ※外国語・実験・実習・実技：30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

授業時間

本学の講義等の開始と終了の時間は次のとおりです。

時 限	1	2	昼休み	3	4	5	6
開 始	8:45	10:30	12:00	13:00	14:45	16:30	18:15
終 了	10:15	12:00	13:00	14:30	16:15	18:00	19:45

授業の開講区分

授業は開講区分に応じて次のように分類されます。

開講区分	説 明
通年科目	1 年を通して実施される授業で、評価・単位は年度末に認定
半期科目	前学期または後学期の半年間で終了する授業で、評価・単位は各学期に認定
集中講義	特定の時期に数日間継続して実施される授業で、評価・単位は学期末に認定

授業科目の区分

本学では次のように授業科目が区分化され、4 年間にわたって計画的・有機的に配置されています。その具体的な内容は以下のとおりです。

授業科目の区分	説 明
必修科目	卒業するために必ず修得する科目
選択必修科目	指定された複数の科目から一定の単位数を修得する科目
自由選択科目	指定された科目区分の中から選択して修得する科目
自由科目	指定された科目区分によらず、自由に選んで習得する科目 修得単位数が卒業要件を超過して修得すると卒業要件に含まれません。

また、本学の授業科目は、教養教育科目、専門教育科目に区分されており、その中でさらに科目区分に分かれています。卒業には、それぞれの科目区分ごとに修得しなければならない単位数があり、単位取得ができなければ卒業することはできません。

科目区分	説 明
教養教育科目	本学の教養教育は、広く心を解放し、人文・社会・自然科学を学ぶことにより、学問分野の広い視点から俯瞰的にものを見ることのできる人材育成を目指しています。 広範で多様な基礎的知識と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する全学共通教養教育として「名桜大学型リベラルアーツ」を構築し、「共通コア科目」、「共通選択科目」をおいています。
専門教育科目	専門教育科目は、専門基礎科目、専門発展・応用科目、演習科目の知識をさらに深めるとともに、これまで修得してきた知識・技術・態度等を用い、総合的実践能力を高める科目から構成されています。

卒業に必要な修得授業科目名、受講年次、単位取得については本ガイドの「Ⅲ 履修計画の作成と登録制度 (p24～34)」、「国際学部履修規程 (p182～211)」を参照ください。

進級について

進級に必要な条件は次の通りです。

学 部	進級に必要な条件	
国際学部	2年次への進級	在学期間が2セメスターを超過していること。
	3年次への進級	在学期間が4セメスターを超過し、60単位以上の単位修得、かつ次の表に掲げる特定の科目を修得していること。進級の時期は4月とする。※教職科目は含まない。 修得単位が60単位未満の海外派遣留学生及び国内派遣留学生は、上記とは別に、国際学部教務委員会の議を経て、国際学部長がこれを認める。
	4年次への進級	在学期間が6セメスターを超過（編入学生は2セメスタを超過）し、所属学科の専門演習Ⅱ・Ⅲを修得していること。

※3年次編入学生のうち、3年次への進級要件を満たしていない者は、編入学後1年以内の学修において、当該学年への進級要件を満たすこと。満たさない場合は、4年次への進級を認めない。

【3年次進級要件科目】

区 分	科 目 名	受講 年次	単位数		進級要件
			必 修	選 択	
教養教育科目	教養演習Ⅰ	1	2		必修科目含め、14単位以上修得すること。
	教養演習Ⅱ	1	2		
	コンピュータ・リテラシー	1		2	
	数理・データサイエンス・AI入門	1		2	
	アカデミックライティングⅠ	1	2		
	大学と人生	1	2		
	ベーシック・イングリッシュ	1	2		
	イングリッシュ・コミュニケーション	1	2		
演習科目	国際文化学科				
	国際文化基礎演習	2	2		4単位修得すること。 ※卒業要件を必ず確認すること。
	国際文化専門演習Ⅰ	2	2		
	国際観光産業学科				
	国際観光産業基礎演習	2	2		4単位修得すること。 ※卒業要件を必ず確認すること。
	国際観光産業専門演習Ⅰ	2	2		

I 建学の精神

II 学修について

III 履修計画の作成と登録制度

IV 教養について

V 国際学部概要

VI 国際文化学科の概要

VII 国際観光産業学科の概要

VIII 留学・資格について

IX 諸手続きについて

X 学則・諸規程

XI 付録

卒業に必要な単位数（卒業要件）

国際学部が開設する授業科目は、大きく「教養教育科目」と「専門教育科目」に分けられ、これらの科目はさらに小さく区分されています。卒業するためには、合計で124単位以上が必要ですが、それぞれの科目区分ごとに取らなければならない単位数があり、このルールを守らなければ卒業することはできません。

なお、それぞれの科目区分から取るべき単位数を越えて修得した単位は、「自由選択科目」としてカウントされます。

国際文化学科

授業科目の区分				単位数	備 考
国際文化学科	教養教育科目	共通コア科目	アカデミックスキル科目	8単位以上	42単位以上
			ライフデザイン科目	2単位以上	
			思想と論理科目	2単位以上	
			沖縄理解科目	2単位以上	
			健康スポーツ科目	2単位以上	
		共通選択科目	外国語科目	10単位以上	
			国際理解科目	4単位以上	
			人文科学科目	4単位以上	
			社会科学科目	4単位以上	
			自然科学科目	4単位以上	
	専門教育科目	専門基礎科目	14単位以上	66単位以上	
		専門発展・応用科目	40単位以上		
		演習科目	12単位以上		
		自由選択科目	16単位以上	16単位以上	
合 計				124単位以上	124単位以上

重要：「単位数欄」の「〇〇単位以上」の履修を守らなければ、仮に「備考欄」の最後の行にある124単位を修得しても卒業できません。

国際観光産業学科

授業科目の区分				単位数	備 考
国際観光産業学科	教養教育科目	共通コア科目	アカデミックスキル科目	8単位以上	42単位以上
			ライフデザイン科目	2単位以上	
			思想と論理科目	2単位以上	
			沖縄理解科目	2単位以上	
			健康スポーツ科目	2単位以上	
		共通選択科目	外国語科目	10単位以上	
			国際理解科目	4単位以上	
			人文科学科目	4単位以上	
			社会科学科目	4単位以上	
			自然科学科目	4単位以上	
	専門教育科目	専門基礎科目	選択必修、必修 選択	6単位以上 8単位以上	66単位以上
		専門発展・応用科目	選択必修、必修 選択	8単位以上 32単位以上	
		演習科目		12単位以上	
		自由選択科目		16単位以上	16単位以上
合 計				124単位以上	124単位以上

重要：「単位数欄」の「〇〇単位以上」の履修を守らなければ、仮に「備考欄」の最後の行にある124単位を修得しても卒業できません。

成績評価の対象（「欠席及び成績評価の対象等に関する申合せ」参照）

学生は登録した科目の授業に出席しなければなりません。
 本学における成績評価の対象は、原則として授業時間の3分の2以上出席した者とされています。

成績評価とGPA

本学の評価基準は次のとおりです。成績評価は、学則第16条に基づき規定されており、59点以下は不可とし、再履修の対象となります。

評 価	GP	成績(素点)	基 準	判 定
秀 (S)	4	100～90点	基準を大きく超えて優秀である	合 格
優 (A)	3	89～80点	基準を超えて優秀である	
良 (B)	2	79～70点	望ましい基準に達している	
可 (C)	1	69～60点	単位を認める最低限の基準には達している	
不可 (F)	0	59点以下	基準に達していない	不合格

<参考資料>「名城大学学則」

(成績評価)

第16条 授業科目の成績は、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）及び不可（59点以下）の5種類の評語をもって表し、秀、優、良及び可を合格とし不可を不合格とする。ただし、実習の場合は、合格又は不合格の評語をもって表すことができる。

本学のGPA（Grade Point Average＝評定平均値）は、成績評価「秀（S）・優（A）・良（B）・可（C）・不可（F）」を4～0までのGrade Point（GP）に置き換え、以下の計算式で算出します。（教職科目は除く）

$$\text{GPA} = \frac{(\text{修得単位数} \times \text{GP}) \text{の合計} = \text{②}}{\text{履修登録科目の単位数合計} = \text{①}}$$

GPA算出例：

科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP
●●基礎	2	秀 (S)	4	8
○○総論	2	良 (B)	2	4
△△実技	1	優 (A)	3	3
履修登録科目 単位数合計①	5	修得単位×GP の合計②		15
GPA $\text{GPA} = \frac{15}{5} = 3.0$				

GPAは大学の奨学金の判断基準となることや、教職希望者の教育実習及び協定校留学等の可否を決める審査等に利用されます。学期末に配付される成績表にGPAが記載されています。GPAアップを学修目標のひとつとして活用します。

シラバスとは

シラバスは、履修計画を作成する上で重要な資料です。シラバスとは、授業の目標、授業で扱う内容、授業の進め方、評価方法など授業の全体像を示す文書のことです。シラバスには、授業選択のガイド、掲載された教育内容を提供するという学生と大学間の合意事項、学修効果を高める文書、授業全体をデザインする文書、カリキュラムに一貫性をもたせるツール（前提科目、前提条件の提示など）など様々な役割があります。

名城大学のシラバスには、次の14項目、①科目名、②担当教員名、③担当教員のメールアドレスと研究室、④取得単位数、⑤開講学期、⑥登録人数、⑦オフィスアワー、⑧授業の概要、⑨到達目標、⑩ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性、⑪授業の計画と内容と事前・授業学修、⑫テキスト・参考文献、⑬成績評価の方法、⑭履修の条件、⑮その他（講義に臨む姿勢）が記載されています。

特に重要な次の9項目（授業の概要、到達目標、ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性、授業計画の内容、テキスト・参考文献、事前・事後学修、成績評価の方法、履修の条件、その他）の簡単な説明を表に示します。

項 目	説 明
① 授業の概要	授業の概要や目的
② 到達目標	授業終了時に身につけて欲しい知識・技能・態度
③ ディプロマ・ポリシー(DP)との関連性	ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）と授業での学びがどう関わるかについての説明
④ 授業計画と内容	各授業の内容や時間外学修内容の提示
⑤ テキスト・参考文献	指定教科書や参考になる本や文献のリスト
⑥ 事前・事後学修	毎回の授業での予習・復習方法
⑦ 成績評価の方法	具体的な評価の基準
⑧ 履修の条件	前提科目や前提条件、履修するのが望ましい科目の提示
⑨ その他	受講上の注意事項、授業のルールなど

シラバスは事前登録に必要なうえ、授業の目標や内容だけでなく、必要なテキスト、講義に臨む姿勢など、詳細な内容が示されています。履修する科目の授業内容や進度を確認し、次回の授業準備や予習にはシラバスは欠かせないものです。このように、シラバスを有効に活用することは、学修を効果的に進めることにつながります。シラバスは本学のWebサイトUNIVERSAL PASSPORT上に掲載されています。

オフィスアワーの活用

オフィスアワーとは、『学生が事前の約束無しに研究室を訪問できる時間帯』のことをいいます。オフィスアワーの時間には、教員は研究室に在室することを義務づけられています。各教員のオフィスアワーは週2時間以上指定されており、シラバスや研究室の前に示されています。授業でわからなかったことや、教員の研究内容の質問だけでなく、相談や雑談などでも構いません。もし、オフィスアワーの時間に授業が入っているときは、事前にメール等で約束をとって教員の研究室を訪ねてください。
※オフィスアワーの活用には、UNIVERSAL PASSPORT・メール・遠隔授業受講ツールなどの利用も含む。

研究倫理とは

研究倫理とは、研究者一人ひとりが守るべき心得、具体的には生命や個人の尊厳や人権を守ることです。ここで述べられている研究者には、国際学部の学生も含まれています。したがって、学生は、すべての生命・個人の尊厳や人権を守らなければなりません。また、誠実に行動・判断し、説明責任を果たし、広く社会からの信頼が得られるよう努めねばなりません。

研究活動上の不正行為

以下の項目は研究活動上の不正行為であり、退学などの懲戒対象となります。

盗 用

- ・ インターネット上で公表されている他人の文章を無断で記載する。
- ・ 他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文または用語を当該研究者の了解または適切な表示なく流用する。

- ・ 調査や実験等を行わなかった、または行ったが結果の取得できなかったにも関わらず、存在しないデータ、結果等を作成すること。

ねつ 造

改ざん

- ・ 研究者が研究によって得られた結果や過程、データ等を自分の都合のいいように変更または加工すること。

具体的な事例は他にもありますが、上記のような不正を起こさないために、誠実な姿勢で臨む必要があります。大学の授業等で作成するレポートや卒業論文等も対象となります。

研究倫理規程

以上の研究倫理を持ったうえで、研究者が適切な研究活動を行っていくために、本学では「名桜大学研究倫理に関する規程」を定めています。また、不正防止の観点から「研究者行動規範」もホームページ上で公開しています。研究活動に取り組む前に、必ず熟読し、守ってください。

研究倫理に関する
本学ホームページ



不正防止に関する
本学ホームページ



生成AIの利用にあたって

本学では「名桜大学生生成AIに関する利用指針」を定めています。そこでは生成AIを「人工物であるデータから表現を学習し、それを使って、元のデータに似ているが同じではない、テキスト、画像、動画、音声、構造等を含む新しい人工物を生成するAI技術」と定義した上で、生成AIの利用についての指針が示されています。この指針をもとに、生成AIを利用する際の注意点を以下に記します。授業や研究活動における適切な利用を心がけてください。なお、生成AIは進化の途上にあることから、本学の利用指針も今後、変更されることもあり得ます。

授業における生成AIの利用について

本学では、カリキュラム・ポリシーにおいてICT活用力を掲げ、また今後の社会において一般的になり得る技術であることから、生成AIを一律に禁止せず、その活用の可能性を探ることを目指します。しかし、授業の特性に応じて生成AI利用の注意事項が異なるため、その可否は担当教員の判断に委ねています。担当教員はレポートや試験などにおける生成AIの利用について学生に予め周知することになっています。それぞれの授業における利用の可否をきちんと把握するようにしてください。

生成AIの利用と大学での学び

大学での学びにおいては、思考力の向上を目指すことが極めて重要です。生成AIを過度に頼ることで、教育効果が損なわれる可能性があります。一方で、知識や技能の獲得においては、生成AIはみなさんの自主的な学習能力の向上を促進する可能性があります。例えば、ブレインストーミング、論点の洗い出し、情報収集、文章校正、翻訳やプログラミングの補助等の主体的な学びの補助・支援においては、生成AIの利用・活用が有効になり得ると想定されます。

したがって、生成AIの仕組みや出力内容の正確性について理解し、その活用を適切に行うことが求められます。生成AIはあくまで補助的に利用し、生成AIによる出力については、必ず自身で事実確認・推敲・完成させることが重要です。生成AIの出力にあたっては、特に以下の点に注意が必要です。

【誤謬（誤情報）と信憑性】

生成AIの出力には、虚偽やバイアス（偏った情報）が含まれる可能性があります。出力内容の信頼性を常に確認し、適宜修正することが求められます。

【法的リスク】

生成AIの出力には、著作権や意匠権等の法的問題が結びつく可能性があります。利用する際には、これらの法的リスクを常に意識してください。

【情報セキュリティ】

生成AIへの入力情報が、他者の学習データとして用いられる可能性が考えられます。機密性の高い情報や個人情報の入力には絶対に避けてください。

生成AIの不適切な利用事例と不正行為

本学がディプロマ・ポリシーとして掲げる、生涯学習力・解決力・表現力は、学生本人による自立した主体的な学びを前提としています。卒業論文やレポートの作成において、生成AIを不適切に使用した場合には、学業上の不正行為とみなされることがあります。生成AIを用いた際には、生成AIの名称、使用箇所、使用方法を明記してください。

なお、生成AIの不適切な使用例としては下記のようなものが考えられます。p221～222に掲載されている「名城大学試験等不正行為取扱要項」もあわせて確認してください。

- ・生成AIが生成した文章を、自分の作文・レポート・論文の課題としてそのまま提出する行為。
- ・外国語の学習成果を評価する課題において、生成AIによる翻訳を自分の成果としてそのまま提出する行為。
- ・実際には参照していないにも関わらず、生成AIが生成した情報を正当な研究や出典として引用する行為。
- ・計算力や問題解決能力を評価する課題において、生成AIを用いて解答を得て提出する行為。
- ・実験において、生成AIで生成した実験データを実際の実験結果として提出する行為。
- ・プログラミング能力を評価する課題において、生成AIに生成させたプログラムやコードを自作としてそのまま提出する行為。
- ・生成AIを利用して他者のアイデアやデザインを模倣し、それを自分のオリジナルな案として提出する行為。
- ・生成AIによって生成された芸術作品や音楽を、自分の創作物として提出する行為。